

～建設リサイクルに顕著な実績のあった3団体を表彰～
建設リサイクル推進奨励表彰「10月29日 東北地方整備局応接会議室」

東北地方建設副産物対策連絡協議会（委員長：東北地方整備局長）は、「建設リサイクル推進奨励表彰」として、建設リサイクルに顕著な実績のあった3団体を表彰します。

表彰式は10月29日（金）に、東北地方整備局 2F 応接会議室で行います。

東北地方建設副産物対策連絡協議会では、「建設リサイクル推進奨励表彰」を平成6年度から実施しています。

これまでに、102団体等が表彰されており、17回目となる今年は、顕著な実績のあった3団体を表彰します。

日 時：平成22年10月29日（金） 13：30～14：00

場 所：東北地方整備局 2F 応接会議室（二日町庁舎）

表 彰 団 体

- 株式会社 佐藤渡辺 東北支店
- 大成建設株式会社東北支店 仙台一番町プロジェクトホテル事務所棟本体工事作業所
- 東日本高速道路株式会社東北支社 相馬工事事務所
前田建設工業株式会社 東北支店 原町トンネル作業所 ※2団体連名

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先

東北地方建設副産物対策連絡協議会 事務局
国土交通省 東北地方整備局 仙台市青葉区二日町9-15
TEL 022-225-2171(代)
企画部 技術管理課長 加藤 信行（内線3311）
企画部 技術管理課長補佐 尾崎 幸男（内線3315）

平成22年度 建設リサイクル推進奨励表彰 表彰式

日時:平成22年10月29日(金) 13時30分～

場所:国土交通省 東北地方整備局

式次第

1 開会

2 協議会委員長あいさつ

東北地方建設副産物対策連絡協議会委員長
国土交通省 東北地方整備局長
青山 俊行

3 表彰状授与

- ・ (株)佐藤渡辺 東北支店
- ・ 大成建設(株) 東北支店
仙台一番町プロジェクトホテル事務所棟本体工事作業所
- ・ 東日本高速道路(株) 東北支社 相馬工事事務所
前田建設工業(株) 東北支店 原町トンネル作業所 (五十音順)

4 閉会

主催 東北地方建設副産物対策連絡協議会

協議会構成機関

国土交通省 東北地方整備局／農林水産省 東北農政局／青森県／岩手県／宮城県／秋田県／山形県／福島県／仙台市
(独)都市再生機構／(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東北新幹線建設局
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東京支社／日本下水道事業団 東北総合事務所
東日本高速道路(株)東北支社／(社)日本土木工業協会 東北支部／東北建設業協会連合会／(社)日本道路建設業協会 東北支部
日本アスファルト合材協会 東北連合会／(社)建設コンサルタンツ協会 東北支部／(社)日本埋立浚渫協会 東北支部

受賞者紹介

◆(株)佐藤渡辺 東北支店

青森県沿岸部において、大量に発生するホタテの貝殻は、食料、薬品、カキの養殖等に利用されているが、使用量は少なく、累積された貝殻処理に苦慮している。

そこで当社は、貝殻を13ミリメートル以下に破碎、再生砕石とし、再資源化したものを加熱アスファルト混合物の骨材として利用し、製品化している。

舗装表面をショットブラストなどの研磨機で処理することで、破碎された貝殻が舗装表面に露出し優れた景観舗装になる事が特徴である。

今後とも、循環型社会の構築のため、微力ながらリサイクルの推進に寄与していく予定である。

◆大成建設(株) 東北支店

仙台一番町プロジェクトホテル事務所棟本体外工事作業所

当工事は東北・北海道地域において、過去最大級のプロジェクトである。(建物最高高さ180m、施工延床面積約125,000㎡)2008年1月の着工より、地域貢献・環境活動のスローガンとして「3R活動の推進」を掲げ竣工までの2年4ヶ月活動を推進した。複数の元請会社間で構成された「街区協議会」や各業種の協力会社の職長からなる「職長会」と連携を図り、工事進捗のイベント毎に活動内容について話し合い、様々な活動を進めた。特に建設副産物の発生量抑制のためにプレカット、プレキャスト化を推進し、発砲スチロールは搬出計画台数が4t車で40台であったが、SRP溶剤で1/50以下の体積にすることにより4t車1台ですんだ。建設産業廃棄物は分別ヤードの整備を行い、11品目に分別して再資源・中間処理業者に委託してリサイクル率の向上に努めた。また現場内で発生したアルミ缶を分別回収することにより車椅子2台と交換し、仙台市身体障害福祉協会へ寄贈した。発注者と連携を取り、近隣小学校の児童の絵画を募集し、パネル化して建設現場の仮囲いに展示した。

◆東日本高速道路(株) 東北支社 相馬工事事務所

前田建設工業(株) 東北支店 原町トンネル作業所

常磐自動車道原町トンネル工事においては、トンネル掘削の補助工法の一つとして鏡吹付けコンクリートや鏡ボルトを採用している。従前は、これらの吹付けコンクリート塊や鏡ボルトは、産業廃棄物として処分されていたが、福島県と協議・調整を図り、再利用するための方法として、吹付けコンクリートについては分別・小割し、盛土材料としての品質を満足させることで、有価物として路体部に利用した。また、鏡ボルトについても、鋼管と樹脂材を分離することで鋼管のリサイクルを可能とし、再生資源としてリサイクルに努めた。

また、当現場では現場見学会等を利用し数多くの方々に啓発活動を行うなどの取り組みも精力的におこなわれている。

建設リサイクル推進奨励表彰とは

かつて建設工場によって発生する土砂やコンクリート塊等の建設副産物は、受け入れ適地や処理施設の不足により処理コストが増大し、不法投棄などの問題が生じていることから、その対策が建設工事を円滑に推進するための緊急かつ重要な課題となっていました。建設副産物は本来、多くが安全で資源としての再利用が可能なものであり、資源の有効活用、環境保全、コスト縮減等の観点から、建設副産物の発生量を抑制することはもちろん、最終処分量の低減を図るとともに、リサイクル推進を実施していくことが重要です。こうした背景の下、リサイクル推進およびその普及啓発活動の一環として、建設事業に係わる廃棄物の減量、資源の再利用等、東北地方においてリサイクル活動に顕著な実績をあげている個人・団体を、東北地方建設副産物対策連絡協議会(委員長:東北地方整備局長)より表彰しているものであり、平成6年度から平成21年度までに102団体等を表彰しています。